

まなびと



もくじ

特集 日常の社会科授業を見つめ直す Part II

学習指導要領完全実施2年目の課題	2
社会科授業づくりの基礎・基本 —自ら調べ、考え、表現しながら社会認識を深める学習活動の工夫	4
日常の社会科授業における指導力の向上に向けての取り組み — 年表・地図・各種資料の活用力向上を	9

実践紹介

デジタル教科書を利用した「活用型」社会科授業の実現を目指して	12
編集部からのお知らせ	15

学習指導要領完全実施2年目の課題

新宿区立早稲田小学校校長 堀竹 充



1 学習指導要領完全実施2年目だからこそ考えるべきこと

物事には「旬」があると言われている。「旬」とは、物事を行う際の一番効果を上げるために適した時期であり、最良の成果を上げるためにはずしてはならない時期だと考える。学習指導要領完全実施2年目を迎え、これまでの取り組みで足りなかったこと、これから軌道修正すべきことも明らかになり始めている。成果の分析を通して、課題がよりはっきりしてきている。だからこそ、各学校においては、今を好機と考え、校長のリーダーシップのもと、学習指導要領の趣旨の実現のために、組織を挙げて授業改善に取り組んでいかなければならない。そして、第二期教育振興基本計画審議経過報告（素案）に示された、「知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会の実現」に必要な資質・能力・態度の育成を、各教科を通してどのように進めていったらよいかを明らかにし、実践の充実を図る必要がある。

2 経験年数の少ない教員の増加

近年、大都市圏を中心に経験年数の浅い教員が増えてきている。本校も学級担任の3分の1が、経験4年未満の教員である。10年未満となると、その占める割合は5割を優に超える実態である。そうした状況のもと、日常の授業を観察していると、知識・技能の理解や習得に基づき思考力を育成する指導や、問題解決的な学習の重要性に対する認識の不足が見られる。指導時間が不足をきたし、児童の十分な理解よりもスピードを重視する姿も見られる。

また、年間指導計画づくりを、経験の少ない教員が、限られた時間の中で担わざるを得ない状況もあり、社会科が得意でない教員にとっては、わかりにくい指導計画となっている場合も見られる。

社会科の授業に対するとらえ方も、課題を提示し、児童に調べさせ、発表させればよいという

らえ方が多く、「活動あって学びなし」と言われるような授業が日常的に見られる場合も少なくない。

経験年数の浅い教員の指導力をどのように向上させるかを考えることは、校長に突き付けられた待ったなしの解決すべき課題である。

3 教材研究の時間の確保

今回の学習指導要領の改訂では、指導内容の増加に伴う指導時間の確保が、大きな課題であった。社会科だけに限ってみれば指導内容の大きな増加はなかったが、教科全体で見れば指導内容の増加があり、総体として指導時間を増やさねばならない状況にあった。その結果として、従来、会議や学年会に充てていた時間を大幅に削り、増加する授業時間に充てざるを得ない状況となった。

本来学年会は、経験の浅い教員に対する指導を行う教師育成の場であり、悩みを受け止め、その解決に向けてモチベーションを高める場でもあった。また、それぞれの教員の得意分野を生かした学び合いの場でもあった。こうした指導力向上の場が減少し、日々の授業に対する自信がなかなか高まらないことの影響は大きい。

教員の本務である指導力の向上のための機会の確保は、校長の大きな責任である。

4 社会科授業における言語活動の目的化

今回の学習指導要領改訂の目玉の一つが、言語活動の充実である。国語科で培った能力を基本に言語活動を充実させることの必要性を理解し、各教科等の指導計画に位置付け、授業や構成、進め方を改善することが教員には求められる。ところが、一部の授業においては、レポートの作成や論述などの活動そのものが指導のねらいとなってしまう、社会科本来のねらいの達成が軽視されている授業が見られるようになった。今回の学習指導要領改訂の趣旨を理解する過程で、「教育内容に

関する主な改善事項」の受け止め方が不十分であったことがその背景にあると思われる。

言語活動の充実を通して、社会科のねらいを達成することが本来の姿である。だからこそ、社会科における言語活動は、社会科のねらいを達成するための手段として位置付けることを再度徹底することが今こそ必要である。

5 新たな指導内容に即した教材の計画的な配備

問題解決学習を学習活動の中心におく社会科の授業においては、資料の役割は特に大きい。教科の指導に必要な教材の購入は、各教科担当の判断に任されている。多くの学校では、社会科の教材について希望を募り、それを参考にして購入する教材を決定しているのが現状である。教科の担当については、専門である教員が当たることは少なく、学校規模の小さなところでは、新規採用教員が一人で担当することも多い。また、単年度単位で購入教材を考えるため、効率的な教材整備ができないといった課題もある。

充実した指導のための環境整備には、組織の適正な活用が必要である。それを校内体制として確立し得るかどうかは、校長の問題意識にかかっている。

6 社会科指導充実のための課題の解決

校長として、課題解決のために何から手を付けるかは、自校の社会科指導の現状分析にかかっている。社会科が専門でない校長も多いが、そうした校長でも可能な取り組みを考えてみたい。

第一に、年間指導計画を誰でも使えるものに修正していくことである。教務主任を中心に、教科主任会で、「経験の浅い教員でも、社会科が苦手な教員でも使える」という観点から改善計画作成プランを作成させるのである。具体的には、①学年ごとに、各単元を終えたところで、活用してよかった教材や学習問題、活動の概要などを付箋紙にメモさせる。②使用した教材の保存計画を立案させる。③課題として残っている事項をメモさせる。④学年としてメモした内容の吟味をする等の時間確保の計画を検討させる。等々が考えられる。

第二に取り組むべきは、経験の浅い教員の指導

力の向上を図ることである。これには、日々の指導のあり方に対して、具体的に指導することが最も効果がある。とはいえ多忙な校長が、全員の授業を毎日見て指導することは難しい。そこで、週案簿に記載された内容をもとに、一つのことに絞って助言をメモするなどの方法が考えられる。重点的に育成を図るべき教員については、適宜、授業の最後に板書をデジタルカメラに記録させ、それをもとに助言を行うといった方法も考えられる。授業観察の際には、授業記録をもとに、よかった点と改善すべき事項をA4判1枚の用紙に書いて渡すことも有効であろう。一度に多くのことを書くのではなく、内容を絞り、十分な成果を挙げるまでくり返し助言を行うことも考えるべきである。時間的な制約や教員の負担等を考え、方法を工夫することも必要かと考える。

第三に取り組むべきは、チームとしての学年会の能力アップを図ることである。そのためには、学年会の定期的な開催が可能となるよう、週時程の工夫やICT環境の活用による会議の精選等を図りたい。また、学年会の記録を提出させ、副校長（教頭）、教務主任に指導助言を書かせるなどの工夫も考えられる。さらには、適切な指導助言を行うことのできる主任の育成も必要である。年度当初、学期当初の主任会では、校長として主任会の目的、課題などにについて明確に伝えるべきことは言うまでもないことである。

第四には、職員会議の冒頭に、必ず校長から授業改善について指導する時間を設け、常に改善すべき課題を意識させる工夫をすることである。学習指導要領の正しい理解や指導のあり方について、くり返し語っていくことが重要である。さらには、個々の教員に応じて、授業にかかわる資料のコピーを配るなど、情報提供を心がけることも大切である。改善には、即効性と遅効性の策を組み合わせて考えるなど、校長も知恵を絞ることが求められるのである。

社会科を苦手とする教員、社会科が嫌いな児童は、残念ながらも少なくないが、今の時期にこそ、こうした状況を少しでも改善できる糸口を見つけることができれば、幸いである。

社会科授業づくりの基礎・基本

—自ら調べ、考え、表現しながら社会認識を深める学習活動の工夫

大田区立池上小学校校長 しまだ 嶋田 えいき 英樹



前任校で、「社会科は、何を、どう、教えたらいいのかわからない。」「社会科は指導するのが難しい。」との声をきいた。また、「社会科の指導案の作り方を研修したい。」との声もあがった。そこで、「学習指導案を作成できる教師」を目標として、標記のテーマで、2年間にわたり校内研究を行った。

「社会科は、何を、どう、教えたらいいのか」を分析するのは、難題だった。しかし、研究を進めていくうちに、社会科の授業づくりには以下の3点が大切であると確認した。

- (1) 「社会科で、何を教えるか」に対しては「知識の構造」を作成する。
- (2) 「社会科を、どう教えるか」に対しては「子どもの思考の流れにそった指導計画」を作成する。学習問題を大切にしたい問題解決型の学習過程をつくる。
- (3) 「調べる力・考える力・表現する力」を子どもたちにつける学習活動を展開するために、どのような学習活動をするのかを「学習活動図」として図に表す。

従来の学習指導案は、この(1)「知識の構造図」(2)「指導計画」(3)「学習活動図」は、文章で記述するものが多かったが、前任校ではすべてA4判1枚に図解することにした。

1 知識の構造図(図表①)

知識の構造図は、社会科で何を教えるかの「何を」に当たるものである。

知識の構造図は、小単元で教える知識を〔中心概念〕と〔具体的な知識・調べてわかる事〕と〔調べる時に必要となる用語・語句や知識〕と〔資料〕に分けて階層をつくり、知識を構造的に整理したものである。

知識の構造図は、上から下に見れば、単元を構成するときの教師の側の思考の流れで、「何を調べさせ」「何を、わからせるか」が明らかになる。また、下から上に見れば、中心概念をどのように獲得していくかという、児童が学習していくときの思考の流れを表している。

知識の構造図の1段目は、学習指導要領や小単元の知識・理解の目標から作成した〔中心概念〕である。児童が調べて見つけた具体的な知識をもとに、さらに考えさせてこの「中心概念」を目ざすことになる。上から2段目は、具体的な知識である。それは、その時間その時間の授業の中で、子どもに何を教えればよいかを表したものであり、学習内容ともよべるものである。上から3段目は、「調べる時に必要となる用語・語句」である。例えば、「多摩川」「用水」といった、正確に覚えさせなければいけない単語レベルの知識である。

授業で使用する資料は、本来、知識ではない。しかし、「1枚の指導計画」(図表②)には記入する欄が作成できなかったため、あえて、知識の構造図の中に点線を引き、「知識を習得させるための資料」として記述した。

「具体的な知識・調べてわかる事」を何時間目に指導するかを「指導計画」とリンクさせて、①～⑧と指導時間を明記した。8時間扱いなら、最後の時間数⑧が〔中心概念〕のところに入る。ただし、学習計画を立てる時間などで、特に獲得する具体的な知識がない時間はここにはあえて記載しない場合もある。

この知識の構造図をつくると、1時間の授業で何を教えればよいかをはっきりし、また単元の終わりに何がわかっていたらよいかを頭に入れながら授業にのぞむことができる。

2 1枚の指導計画(図表②)

学習過程は、問題解決型学習過程である「つかむ」「調べる」「まとめる」の3段階を基本にした。「つかむ」には、学習問題を設定して、予想し、学習計画を作成するまでを含めた。

研究を開始する前までの前任校の授業の実態として、「まとめる」の学習活動が不十分で、中心概念の獲得や、学習問題の答えに到達しない授業が多くあった。そこで、中心概念に行き着くための学習活動を意識して、あえて「学習活動図」(図表③)を作成した。

学習の流れは、「知識の構造図」とリンクさせ、なるべく簡単に記述するように心がけた。また、学習問題は、図表②のように大きく記載し、常に意識するようにした。評価については、観点別評価規準と評価方法を、どこで行うかがわかるような記述とした。

従来からある記載事項や文章量が多い指導計画では、どうしても全てを取り上げなければならないと思いがちになる。しかし、この「1枚の指導計画」ならば、小単元の流れを大きくつかむことができ、途中で計画通りの進行為難しくなっても、学習問題さえ明確に設定しておけば、教師自身が軌道修正することが簡単にできる。

また、当初は学習問題をどうつくればよいかわからない教師が多かったが、実践を重ねるたびに、学習問題がいかに重要であるかを確認することができた。社会科の授業づくりでは、学習問題づくりが一番大切である。

3 学習活動図(図表③)

学習指導要領では、社会科の目標は、各学年とも三つある。(1)(2)は、学年の発達段階に応じて、地域・くらし・国土・産業・歴史・政治国際と学習内容が記載されている。(3)は、各学年とも育てたい力について記載されている。「～を活用し、～について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」である。社会科の学習では、どの単元においても、学習活動は、調べる力・考える力・表現する力が

つくようなものになっている必要がある。

学習活動図では、左に児童の実態を記載し、右に、その小単元の学習を通して目ざす児童像を記載するようにした。また、右上に小単元の目標を記載し、学習のゴールとした。その学習のゴールに行きつくために、「学習問題をつかむ学習活動」「自ら調べる学習活動」「考えたり表現したりする学習活動」「社会認識を深める(まとめる)学習活動」を設定し、どのような学習活動をするかを記載した。また、それぞれの学習活動において、望ましい反応を記入するようにした。

目ざす児童像に行きつくために、さまざまな学習活動が提案されたが、まず「板書計画」(略)をしっかりと作成し、授業の流れをおさえること、そして児童が黒板に書いてあることをノートにしっかりと写すことを大切にされた。書いて整理することが、考えを深め、表現力をつけるための第一歩と考えたからである。

黒板を写したノートをもとに、根拠をもって話す、比較するといった学習活動が生まれてくる。教師が1時間1時間計画的な板書をし、児童がそれをしっかりと書き写す活動から、言語活動は始まると考えた。

「社会科は、何を、どう、教えたらいいいのか」を明確にするためには、「知識の構造図」「1枚の指導計画」「学習活動図」の3枚の図表を関連付けて作成することが有効である。

また、「学習指導案」は、これらの3枚の図表を入れ、さらに本時案(略)の板書計画まで計A4判7枚の構成となる。さらに、「小単元の目標」「評価規準」「三観点(教材観・児童観・指導観)」「知識の構造図」「学習活動図」「指導計画」「本時案」の関連付けを明確にすることも大切である。そのために、見本となる「学習指導案作成例」(略)を作成し、指導案づくりの参考にした。

これらの「3枚の図表」と、見本としての「学習指導案作成例」を、「社会科授業づくりの基礎・基本」としての提案とした。

図表①

知識の構造図（8時間扱い）

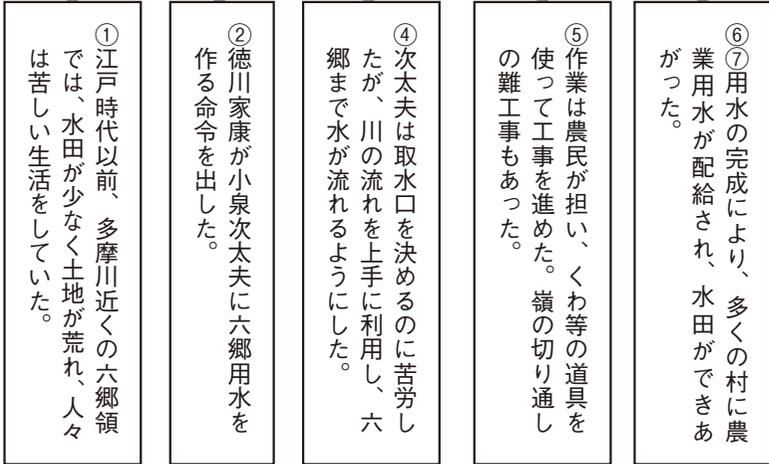
中心概念
【獲得させる知識】

⑧小泉次太夫や農民が、日照りや洪水に悩んでいた六郷領に、工夫や努力を重ねて六郷用水を開き、安定した農村に変えた。

- 小単元の目標の、知識を中心とした言葉にする。

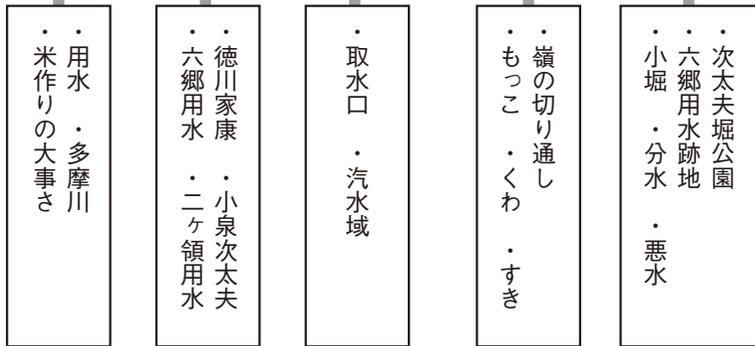
具体的知識
【調べる事】
【学習内容】

- 中心概念を習得させるための知識（学習内容）
- 数字は指導計画と一致



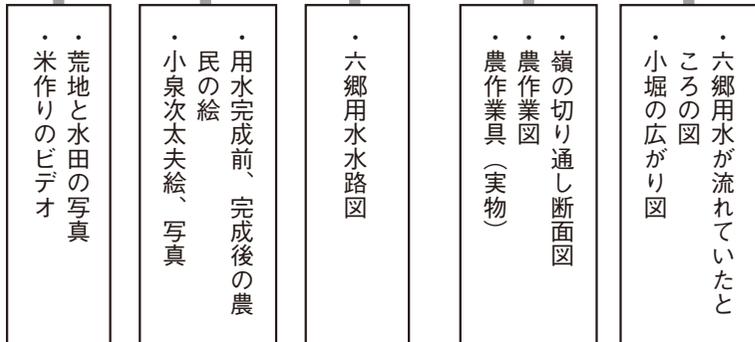
調べる時に必要となる用語・語句
【用語・語句】
教師が教えない事項
【学習要素】

- 調べる時に必要となる用語・語句
- 基礎の知識



資料

- 知識を習得させるための資料は、点線の下に書く。
- 次ページの指導計画では記入欄がないので、あえてここに記入した。



図表②

指導計画（8時間扱い）

問題をつかむ

気付け①②

- ビデオを見て、米ができるまでの様子を知る。
- 用水完成前と完成後の絵を比較し、農民の気持ちを考える。
- 学習問題を設定する。

学習活動

予想する③

- 学習問題を解決するための課題をつくり、学習計画を立てる。
- ＜調べること＞
 - ・ 用水の取水口や水路
 - ・ 作業方法や道具
 - ・ 難土地の掘り進め方
- ＜調査方法＞
 - ・ 資料（映像・冊子）
 - ・ 用具（くわ・すき）

学習問題

調べる

調べるⅠ④⑤

- 用水の取水口や水路を調べる。
- 作業方法や道具について調べる。
- 難土地をどのようにして掘り上げたかを調べる。
- 調べるⅡ⑥⑦
 - 六郷用水跡地を歩き、当時の苦労や先人の知恵を調べる。

まとめる

まとめる⑧

- 六郷用水を開くことによって、安定した農村に変えた先人の働きや願いを知り、新聞を作成する。

時間数は「知識の構造図」「学習活動図」と一致させる。

【学習問題】小单元を貫いて学習していくもの

小泉次太夫や農民たちは、どのような工夫や努力をして六郷用水を作ったのだろうか。

主な評価規準

- 六郷領を安定した農村に変えた六郷用水に関心を持ち、学習問題を設定することができ。
- 複数の資料を使って調べようとしたり、地域の用水跡を見つけようとしたりする。（関心・意欲・態度）

- 学習問題を解決するための課題を考え、学習計画をたてられる。
- 課題について予想が考えられる。（思考・判断・表現）

- 地図や写真、年表などの資料を効果的に活用したり、用水跡を見学したりして、工事の方法や工夫、用水の果たした役割を調べている。（観察・資料活用技能）
- 用水工事の方法や工夫を調べ、用水が果たした役割や、先人の努力、用水への思いについて考え、表現する。（思考・判断・表現）

- 用水工事の道具や技法、用水の果たした役割を知り、地域の発展に貢献した先人の働きや思いを理解する。（知識・理解）
- 用水が果たした役割や、先人の努力、用水への思いについて考え、まとめることができる。（知識・理解）

評価方法

- 六郷用水に関心を持ち、気付いたことや疑問を進んで話そうとしている。（ノートの記述内容・発言）

- 問題解決のために何をどのように調べるか考えられる。
- 予想することができる。（ノートの記述内容・発言）

- 工事の方法や工夫を調べ、先人の思いを理解することができる。（発言・ノート）

- 先人の努力、用水への思いについて考え、自分の言葉で表現することができる。（発言・新聞）

主な評価規準 学習指導案の評価規準と一致させる。

図表③

学習活動図(8時間扱い)

小単元名「六郷用水を開く」

自ら調べ、考え表現しながら、社会認識を深める学習活動の工夫

小単元の目標

- 日照りや洪水に悩んでいた六郷領を、工夫や努力を重ねて六郷用水を開くことにより安定した農村に変えた小泉次太夫や農民の働きや願いについて理解する。

児童の実態

- 社会の授業は楽しいと思っている児童が多い。
- 予想や自分の考えをノートに記述できる児童が少ない。
- 調べたことをまとめることができる児童が増えてきた。

学習指導案の児童観と一致させる。

目指す児童像

- 資料や写真から当時の様子を予想し、自分の考えをもち、自ら進んで調べようとする児童。
- 先人の働きや願いを知り、自らの言葉で調べたことをまとめることができる児童。

学習指導案の児童観と一致させる。

①～⑧は、この単元の時数を表す。「知識の構造図」「指導計画」と一致させる。

①②学習問題をつかむ学習活動

- ビデオを見て、米ができるまでの様子を知る。
- 用水完成前、完成後の絵を比較し、農民の気持ちを考える。
- 学習問題を設定する。

④⑤自ら調べる学習活動

- 用水の取水口や水路を調べる。
- 作業方法や道具について調べる。
- 難土地をどのようにして掘り上げていったかを調べる。

⑥⑦考えたり表現したりする学習活動

- 六郷用水完成後、水田がどのように広がっていったかを調べ、以前の様子と比較する。
- 六郷用水跡地を歩き、当時の苦労や先人の知恵を調べる。

⑧社会認識を深める学習活動

- 六郷用水を開くことにより、安定した農村に変えた先人の働きや願いを知り、新聞を作成する。

小泉次太夫や農民たちは、どのような工夫や努力をして六郷用水を作ったのだろうか。

①②学習問題に対する児童の予想

- 「米作りには水はなくてはならないものだ。」「水の通り道が用水というんだ。」「土地が荒れていて作物が育たない。」「用水のおかげで米作りができる。」「どうやって六郷用水を作ったのだろうか。」「どんなことが大変だったのだろうか。」

学習指導案の児童観と一致させる。

④⑤自ら調べている姿

- 「海水が混ざらないように、和泉村を取水口にしたんだ。」「全て人の力で作ったので、昔はこんなつらさがあったんだ。」「1年間、男女が協力して完成させたのは、次太夫の工夫があったからだ。」

予想される子どもの姿 ・子どもの反応

⑥⑦考えたり表現したりする児童の姿

- 「水に困ることがなくなり、田んぼが増え米作りが始まり生活が安定した。」「こんなに長い距離を人の力で工事していたんだ。」「次太夫の知恵のおかげで六郷領が豊かになった。」

⑧社会認識の深まった時の児童の姿

- 「大田区には先人の知恵によって作られた六郷用水があり、今も地域の人の協力と努力によって守られ続けている。」「たぶん他の地域も、先人の知恵を活かした生活をしていったのではないか。」

「学習指導案作成例」の指導観と一致させる。

指導の工夫

- 用水完成前と完成後の農民の様子が描かれた絵を用い、比較させ、当時の様子を予想させる。用水開発に関わった人物や、工事の期間、用いた道具、苦労や工夫したところを丁寧に取り上げ、学習課題を設定させる。
- 調べ活動では、用水の取水口や水路、作業方法や道具、難土地をどのようにして掘り上げたかを取り上げ、教科書、写真、現地に行き収集した資料を活用する。また、多くの児童が調べたことを発表できるように、机の向きを工夫し発言しやすい学習の場を設定する。

日常の社会科授業における 指導力の向上に向けての取り組み

— 年表・地図・各種資料の活用力向上を

北九州市立すがお小学校校長 しょう のぶひこ 庄 展彦



はじめに

社会科を研究する教師は、教材開発の醍醐味を味わいながら、授業に実物資料や自作資料を持ち込み、熱気溢れる教室で子どもたちと楽しく学びがいのある授業をしたいと願い、実践してきた。しかし、若手の教師にとって、社会科は、何をどう工夫し指導すればいいのかがわかりにくく、難しい。そのため、教科書の大切な箇所に線引きをさせるような、ワンパターンで魅力の乏しい授業に陥りがちだといえる。まずは、日常の社会科授業で心躍らせる経験が必要ではないだろうか。

教科書を使った日常の社会科授業においては、小・中学校ともに時間軸（歴史）、空間軸（地理）、社会軸（公民）の観点を踏まえ、①年表、②地図、③各種資料（写真・絵図・グラフ・分布図・統計等）の三種の神器を効果的に扱い、子どもたちが資料を活用して必要な情報を読み取り、考える力を育成していけるように、指導力の向上を図りたい。

教科書や副読本に掲載されている写真をはじめ、年表や分布図、統計資料等から事実や情報を丹念に読み取る過程で、その行間にある記述されていない社会的背景や要因、社会事象相互の関連を探ることが、社会事象を読み解く力となる。こうしたことが、教材研究や指導力の向上につながるといえる。

まず、教師自身が「年表・地図・各種資料」の三種の神器を楽しく追究し、資料を読み解く面白さを体感できることを目指したい。

1 時間軸（歴史）から — 年表の活用

年表は歴史的事象を時系列に記した表であり、年表で歴史を学ぶ意義は、「いつ、何があったか」

から始まり、流れ、原因と結果、影響を考えながら、意味づけをし、個別の知識ではなく、そのつながりを説明できることである。つながりのキーワードは『クイーン掃除だ（く・いん・そう・じ・だ）』だ。

「く」はくくり、包括関係。AはBでくくられる。
「いん」は因果関係。Aが原因でBという結果に。
「そう」は相関関係。ABが同じように変化や反応。
「じ」は順序関係。Aの次にはBが続く。

これを用い、時代の特色やかかわり、つながり等の関係性を探らせた。

（発問）

日本には、戦いが約100年にわたって続いた時代が2度あります。さて、どの時代のいつからいつまでのことでしょうか。また、その二つの時代を比べましょう。

これは、有田和正氏の実践である。二つの時代とは、いわゆる戦国時代（応仁の乱から室町幕府滅亡）と、江戸末期から終戦までの時代である。前者が、天下取りを旨とした内戦の時代であったのに対して、後者は、外国との戦争が続いた時代である。

室町 安土桃山	1467	応仁の乱始まる	江戸 明治・大正 昭和	1853	ペリーが浦賀に来航
	1477	応仁の乱終わる		1863	薩英戦争
	1485	山城の国一揆		1864	四国艦隊下関砲撃（馬関戦争）
	1488	加賀の一向一揆		1877	西南戦争
	1493	明応の政変		1894	日清戦争
	1560	桶狭間の戦い		1904	日露戦争
	1570	姉川の戦い		1914	第一次世界大戦
	1571	比叡山の焼き討ち		1937	日中戦争
室町 安土桃山	1573	将軍足利義昭を京都から追放	1939	第二次世界大戦	
			1941	太平洋戦争	
			1945	広島・長崎原爆投下、終戦	

歴史の時間軸から、事象間相互の行間を読み、じっくりとつながりを意識し考えさせたい。

2 空間軸（地理）から — 地図の活用

地図を目的に応じて読図し、生活に役立たせる力をつけるために、「点・線・面」での情報の読み取りから、地図を活用した作業の工夫を紹介し

たい。

(1) 「点」での読み取り

「点」では、一般図（地形図・地勢図・地方図など）における記号等や地名を読み取らせたい。

①索引を活用しての地名探し

子どもたちは、Jリーグやプロ野球が好きである。しかし、「鹿島」や「平塚」がどこにあるかを知らない子どもも多い。位置がわからない時は、地名の読み方がわかっていれば、索引を使うと便利であることを実感するゲームを取り入れたい。

②面白記号探し

地図帳で、各地の特産品、農産物、工業製品、文化財などを表している絵記号を探したり、地図記号でも商港「」と漁港「」、ダム「」や滝「」等の違いを見つけるクイズを取り入れたりしても面白い。

③面白地名探し

鹿児島県の「川内」と宮城県の「仙台」等、「同じ音をもつ地名」探しや、「読み方の難しい地名」探し、「数字のつく地名」「動物の名前が隠れている地名」「苗字（小林市）と同じ地名」など、バリエーションは豊かである。

④ニュースを活用した「今日の特ダネ」

テレビ・新聞の報道で出てきた地名を探す。

(2) 「線」での読み取り

「線」では、あるラインに沿って地図を読んでいく。海岸線、鉄道や道路など、ライン上を指でたどっていくとわかりやすい。

①地図旅行

定番である地図旅行は、子どもの興味をかき立てる活動である。駅のアナウンスをまねたり、列車の出発音を入れたりすると、臨場感が出てさらによい。また、福岡（博多）から東京までの行程で、車窓から見える風景を地図から読み取らせ、想像をふくらませながら、ルポライターになったつもりで綴らせるのもよいだろう。

②こだわり探検隊

あるテーマ（こだわり）をもとに、ラインで探検していく。温泉のマークをたどって温泉ベルト

探し、自然林の分布をもとに緑のベルト探し、などが考えられる。

(3) 「面」での読み取り

「面」では、あるエリアを設定し、限定された中で地図を読んでいく。

エリアの設定は、緯線・経線をもとにしたり、島・半島・平野など自然地理的ユニットをもとにしたり、都道府県、市町村など行政・人文的ユニットをもとにしたりして限定していく。

①形どりシルエットクイズ

島や都道府県の形をトレースして、シルエットクイズにする。シルエットから、昆虫や動物などに見立てて、イラスト化する作業もものってくる。

②エリア内ツアー計画づくり

「九州二泊三日の旅」、「東北四大祭りツアー」など、エリア内での旅行計画づくりは、「線」の応用としても活用できるものである。

3 社会軸（公民）から — 写真資料の活用

社会科で取り扱われる各種資料（写真・絵図・グラフ・分布図・統計等）の中から、ここでは写真資料を使った工夫を取り上げる。

写真資料の読み取りでは、量の面では、「どれだけのはてな」を見つけたか、その数を数値化し、3段階程度で測定するとよい。質の面では、「どんなはてな」を見つけたか、その内容が比較・関連や既知と結ばれているか等の視点を設定したい。

教科書『小学社会5下』38～39ページに掲載されている写真を例に、具体的に紹介する。

①「どれだけのはてな」か — 量の数値化

38ページの「七色のけむりにおおわれた、合併前の北九州市の空（1960年ごろ）」の写真⑦を、



具体的に読み取らせる。その際、発問を順序よく構成することがポイントである。

(基本の発問)

写真を見て、わかったこと・考えたこと 気づいたこと・思ったことを箇条書きにしましょう。

まずは、「量」から始めたい。

作業時間は5～10分間である。児童の鍛え方や写真資料の質によるので一概には言えないが、目安として、時間(分)×学年で標準個数の数値を設定している。例えば、5学年で、5分間なら約25個、10分間なら約50個とし、その前後±5～10個で「B」、それ以上は「A」、それ以下は「C」と考える。

ノートに番号をふって箇条書きにさせてもよいし、ポストイットを利用して書かせてもよい。目標数値を伝えたり、途中経過を紹介したりしながら、子どもの活動を支援するようにしたい。

- ・煙突と工場が多い。 ・煙だらけだ。
- ・どうして白や茶色の煙があるのか。
- ・遠くは煙で見えない。

(新たな観点での発問)

どこのことか、どの方向か、いつの季節か、等(見えないものを問う)

- ・煙の方向から北西の風だから、冬だ。
- ・～だから、八幡の平野地区だと思う。

(学習のねらいに迫る観点での発問)

この煙の中、当時の人々はどんな暮らしをしていたのでしょうか。

なぜそう考えるのか、根拠を問いながら、推測させたい。子ども自身の経験とつなぎながら、煙だけでなく、悪臭や騒音等も想像させて、感性で感じ取らせたい。そして、そこに生活する人々の立場に立ち、悩みや願いに思いをはせることで、学習のねらいに迫っていく。

②「どんなはてな」か 一質の数値化

複数の写真を比較させ、関連・関係づけたり、総合・分析したりする中で、より質の高い「はてな」へとつなげていく。

39ページの「現在の北九州市の空」の写真①と、38ページの②とを比較させる際には、2枚を同時に出して比較させる方法もあるが、まず一方を



じっくりと読み取らせた後で、もう一方と比較させると、その変化に対する驚きが、深い読み取りにつながっていく。

(子どもの記述例)

- ・煙突や煙はどこに消えたのだろう。
- ・どんな工夫をして緑を増やしたのだろう。
- ・約40年間でどんなことをしたのだろう。
- ・誰が、どのようにして青空を取り戻したのだろう。

子どもたちにイメージ豊かに予想させながら、学習の共通化を図っていく。具体的な疑問が、予想と見通しをもちながら、学習問題へと高まっていくようにしたい。

(学習問題の例)

北九州市の人たちは、青い空や海を取りもどすために、どんな努力や工夫をしてきたのだろう。

子どもは、このブラックボックスを追究し始めるのである。

おわりに

教科書や地図帳による日常の社会科授業においては、社会科の基礎・基本となる「年表・地図・各種資料(写真等)」を駆使して、教師自身が教材研究を楽しむことが指導力向上の第一歩であると考え。私自身も、若手の教師にこれらの資料を使つての授業を行って見せたり、所属する社会科研究会の中で、若手の教師に模擬授業をさせたりして、指導力の向上に努めているところである。

学習内容の「社会」は生きている。子どもと織りなす「授業」も生きている。社会科の根幹をなす「年表・地図・各種資料」を使つての授業は、子どもたちの内面を刺激するような工夫を図り、楽しいものとなるようにしたい。

それが、社会科の指導力向上のための確実なステップアップの方法であると考えている。

デジタル教科書を利用した 「活用型」社会科授業の実現を目指して

甲斐市立双葉東小学校 ひらつか 平塚 かつひと 克人

● はじめに

本校は、平成 21 年度文部科学省「電子黒板を活用した教育に関する調査研究」モデル校に指定され、電子黒板（50 インチ）と実物投影機、高速スキャナを全教室に配備した。さらに、平成 22 年度から 3 年間は、甲斐市教育委員会の「ICT を活用したわかりやすい授業推進事業」の指定校になり、「心を育てる授業づくり」のために ICT をどう活用すべきかについて学校ぐるみで取り組んできている。デジタル教科書については、平成 23 年度までに国語、算数が全学年に配備され、24 年度には理科と社会のデジタル教科書も導入された。

異動のため、今年度より、このような電子黒板活用先進校にお世話になることになった。したがって、4 月からわずか 4 ヶ月間だけの実践だが、感想を交えながらその取り組み内容等を紹介していきたい。

1 利用環境のよさ

前任校には電子黒板自体が 2 台しかなかったため、利用したい時には、そのたびごとに電子黒板を教室に移動させてこなければならなかった。さらに、職員室の校務用ノート PC を教室に持ち込み、電子黒板へ接続しなければならないという環



境であった。しかし、本校に来てから、電子黒板が、「複雑で、準備に手間がかかり、使いづらい」というイメージから、「簡単で、短時間で準備でき、使いやすい」と思えるようになった。そのため、朝、教室の PC を起動させて電子黒板を 1 日中使えるようにしておくことが日課となった。

予算がからむためこのような環境づくりは容易なことではないが、ICT を活用した授業づくりのベースになることなので、見通しをもった継続的な予算要求が必要であると考えている。

2 集中力と情報が 2 倍に

当初、ICT 機器は、児童に説明を周知させるために教師側が活用することが主であったが、現在は、児童の思考力・判断力・表現力を育成するツールとしての活用を中心に、本校でも研究が進み始めている。

活用型授業を充実させるためには、子どもたちが考えたり発表したりする時間を十分確保しなければならない。このような時間を生み出すためには、教材や学習環境の充実はもとより、ワークシートや提示資料（動画、写真、図、グラフ等）を用意しておくことが重要になってくる。そうすることで、子どもたちがさまざまな視点から単元や本時の目標に向かって、関心・意欲をもって取り組むことができる。特に、視聴によって得るものは、教室で学習する子どもたちにとって貴重な情報源である。「～のようになります。」「～のようにも思えます。」というようなある種の葛藤状況を生み出してくれる教材は、まさしく活用型授業にもってこいのものになる。

そう考えると、私がこの 4 月に出会った社会科のデジタル教科書は、活用型授業を仕組むうえで、一人一人の子ども疑問や予想などに応じた、個

別の追究を可能にしてくれる一情報源または一学習ツールだともいえる。

その理由として、次のようなことを感じた。教科書は、児童一人一人が自分のものとして持っていることができる。それに対し、デジタル教科書は持ち運ぶことはできないが、①子どもが持っているものと全く同じ写真、資料が拡大されることで意欲・関心が高まる。②教科書にプラスされた情報や仕掛けがあるため、子どもたちも興味をもって学習できる。③手軽に拡大提示できるので、見てわかる授業が大変身近になる。④子どもたちの目を教科書（それぞれが自分の教科書を見ている状態）から電子黒板に向けさせて、一体感をもって情報を共有できる。

とはいえ、まだ教材研究不足のため、デジタル教科書を十分に使いこなせていないのが現状である。そんな中、ささやかではあるが、1学期の実践についてふれたい。

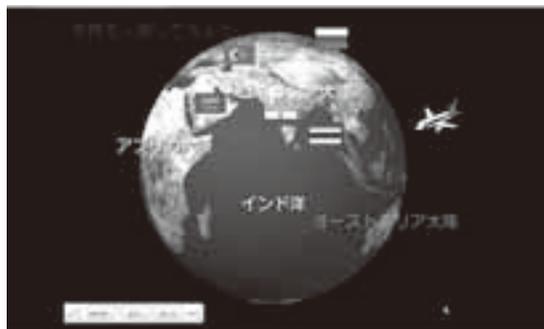
3 1学期の実践から

いずれも、『小学社会5上』（教育出版）をもとにした実践である。

1 わたしたちのくらしと国土

①「1 日本は世界のどこにあるの」p.8～11

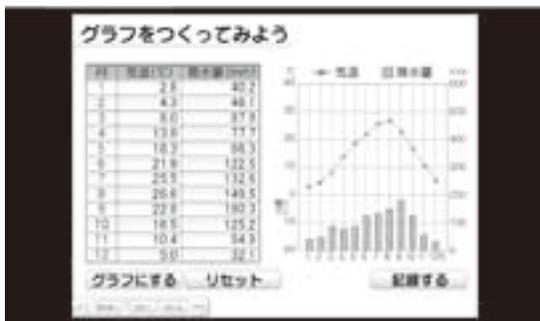
地図帳や地球儀を見ながら、六大陸・三海洋・東半球と西半球の国々について調べた。それらの位置を見るとき、デジタル教科書の「仕掛けを表示」で、下図のバーチャル地球儀を回転させながら探すことで、教室の子どもたちの視線すべてが、画面とそれを操作する子どもに向いていた。そこで確認してから、改めて目を地図帳や地球儀に移す



ことで、容易に大陸・海洋・国々の位置確認ができた。

②「2 日本にはなぜ四季があるの」p.19

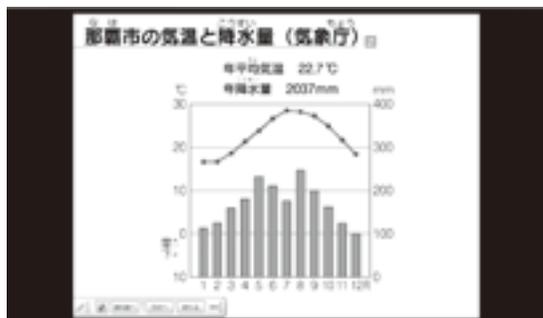
教科書には、日本の気候の特色を学んだ上で、自分の住んでいる地域の月別の気温と降水量を表やグラフに表す学習がある。地方気象台から出されているその月の気温と降水量を表に記録し、それを折れ線グラフや棒グラフで表すようになっていいる。しかし、グラフを書くことがなかなかできない子どももいる。そこで、デジタル教科書の「仕掛けを表示」で、縦軸左の気温、縦軸右の降水量に注目させながらグラフに表示させた。その操作をすることで、「あっ、わかった。そういうことだったのか。」と言いながら、ほとんどの子が自分の席にもどって教科書のグラフに書きこむことができた。理解にやや時間がかかる子どもも、電子黒板で「グラフにする」「リセット」の操作を繰り返すことで、気温と降水量をそれぞれ折れ線グラフと棒グラフから読み取ることができるようになった。



③「3 住みよいくらしと環境」p.22～23

「沖縄県の人たちのくらし」で、5月にプールに入っている教科書の写真を電子黒板で拡大して

見せた時、子どもたちからは一斉に、「あっ、いいなあ。早くからプールに入れて。」と大きな反響があった。しかし、それ以上に子どもたちが驚いたのは、「那覇市の気温と降水量」のグラフのところでプラスして表示される、暖かい地域の象徴的な写真であった。グラフから1クリックで、「2月に田植えを行う(与那国島)」の写真を見ることができるのである。本校の周りでは、田植えは5月に行っている所がほとんどなので、子どもたちは田植えの時期の早さに驚いていた。



これは、「北海道宗谷地方の人たちの暮らし」でも同様で、「稚内市の気温と降水量」のグラフにプラスして表示される、ブルドーザーで道路を雪かきする写真も、稚内の寒さを実感させるものだった。

2 食料生産を支える人々

①「1 農業のさかんな地域をたずねて」

p.52～53

稲作カレンダーの中に、農家の方々が行う多くの仕事が表示されている。その仕事の写真は教科書にもあるが、トラクターの実際の動きを動画で容易に見ることができるのは、デジタル教科書の良さである。実際にそうした仕事場面を見学するに

は、相手の農家と学校側の予定を調整して、見学のための書類作成、下見等が必要になり、多くの時間と労力を費さなければならない。



このように見てくると、デジタル教科書は、社会科を専門とする教師やICTに堪能な教師だけでなく、どの教師にとってもやさしいものであり、教えやすく、わかりやすいものであるということが言える。社会科の学習内容には、言葉だけでは理解が難しい内容もあるが、そこを映像で橋渡しすることで、言葉や概念の理解が容易になる。また、デジタル教科書に収録されている動画はリアリティあふれるバーチャルな世界であるとも言える。

● おわりに

電子黒板では、次の画面提示に移ると、前の画面が消えてしまう。そのため、併用する黒板の方で何を提示するのかを十分に考えておく必要がある。私自身は、黒板には、授業の導入で使ったグラフや各国の様子の写真などを印刷したものを提示し、授業中に子どもたちから出た発言を簡潔に板書していき、黒板をただで授業の流れがわかるようにまとめるよう努めてきた。

私たちにとって一番身近な教材・教具である教科書とデジタル教科書の効果的な役割分担を、今後も考えていきたい。

編集部からのお知らせ

◆平成 24 年度用の教科書は、平成 23 年度用の教科書と下記の箇所が変更されております。ご指導の際にはご留意くださいますようお願い申し上げます。

【小学社会 3・4 下】

ページ	行	平成 23 年度用	平成 24 年度用
p.26	折込 ふりがな	きょうじょうさくしゃ	きゅうじょうさくしゃ
p.27	囲み 写真ネーム	山岳警備隊員	山岳救助隊員
p.34	8～13	地震のことを、くわしく知りたくなつたまなみさんたちは、図書室で本をさがして、調べてみました。すると、日本では、これまでも、さまざまな場所で地震が発生し、建物がこわれたり、火事が起きたりするなどの被害が出ていることがわかりました。	2011（平成23）年に発生した東日本大震災では、東北地方から関東地方を中心に、津波などによる深刻な被害がもたらされました。まなみさんたちが調べてみると、日本では、これまでも、大きな地震によって、さまざまな被害が出ていることがわかりました。
p.35	写真と 地図	津波と火事の被害を受けた地いき（1993年 北海道興尻町）	津波で被害を受けた工場と、たおれた道路の案内標しき（2011年 岩手県大船渡市）
p.54	小見出し	ごみをもやした灰のゆくえ	ごみをもやしたあとの灰のゆくえ
p.81	14～18	その後、目標は35%へと改められましたが、その目標も、すでに達成されています。	2011年からは、G30の成功をもとに、ごみをさらにへらしていくための新しい取り組みが始まりました。
p.82	地図		（地図中の発電所の2012年1月現在の運転状況を補筆）
p.83	囲み	バランスよく電気をつくっています。	電気をつくっています。
p.112	折込右 ページ	県の北側と南西側が、	県の北側と北東側、西側と南西側が、
p.120	上地図		（九州新幹線を追加）
p.127	地図	つづみの里小石原焼協同展示場	小石原焼協同展示場
p.155	下地図	サンパレス国際センター	福岡国際センター（ほかに一部銀行の位置を変更）

【小学社会 5 下】

ページ	行	平成 23 年度用	平成 24 年度用
p.2, 70	地図		（南スーダンの独立に伴う国境の変更を反映）
p.15	下囲み	障害	しょうがい
p.16	脚注		（東日本大震災の発生に伴う状況の変化について補足）
p.19	右地図		（鳩ヶ谷市の編入合併による川口市の市域の変更を反映）
p.52	3～9	わたしたちが住んでいる日本は、自然災害に数多く見まわれます。特に、火山が多い日本では、毎年地震が起きています。大きな地震が起きると、電気、ガス、水道などのライフラインが止まってしまい、そこに住んでいる人々の生活に大きな影響をあたえます。また、土砂がずれなどで道路がさえぎられ、	わたしたちの住む日本は、自然災害に数多く見まわれます。特に、地震はよく起きる災害です。近年では、2011（平成 23）年に東日本大震災が発生し、津波などによる深刻な被害がもたらされました。大きな地震が起きると、電気、ガス、水道などのライフラインが止まり、人々の生活に大きな影響をあたえます。土砂がずれなどで道路がさえぎられ、
p.53	下囲み	「あーあ、何つうごったべえ。家も何もかにも、なくなっちゃったがあ。」この百年余りで3回の大津波を受けています。津波被害を防ぐには何が必要でしょうか。家を高台に移したり、防潮堤や避難路をつくったりするとともに、いざというときに備えて、避難訓練も必要です。綾里小学校の子どもたちは、劇を通して地域の災害の歴史を知り、そのなかから身を守る知恵を学んでいます。	「早く！上の畑に上がれ、早く逃げ！」この百年余りで4回の大津波を受けています。東日本大震災（2011年）でも、多くの人々が津波の被害を受けましたが、このような劇などを通して、地域の災害の歴史や、津波から身を守る知恵を学び、避難に生かした人たちもいました。津波災害を防ぐにも、家を高台に移したり、防潮堤や避難路をつくったりするとともに、防災に対する意識を高めることが大切です。
p.57	2～3	2020年までに温室効果ガスを1990年の排出量から25%減らす目標を世界に表明しました。	温室効果ガスの排出量を大幅に減らす目標を世界に表明し、その実現に向けた取り組みを進めています。
p.61, 69	地図		（世界遺産として「平泉の建築・庭園と考古学的遺跡群」を追加）

【小学社会 6 下】

ページ	行	平成 23 年度用	平成 24 年度用
p.9, p.19	囲み 写真ネーム	障害のある人	障がいのある人
p.19	写真ネーム	国とハンセン病の元患者の人々との和解	国とハンセン病の回復者（元患者）の人々との和解
p.19	囲み	人々は差別や元患者の人々	患者や回復者の人々は差別や こうした人々
p.26	図	その他の裁判官を任命する	その他の裁判官を任命する
p.31	写真と 説明文	防災ハザードマップ（岩手県宮古市）	洪水ハザードマップ（大阪府摂津市）
p.51	7～8	日本が輸入している石油のおよそ4分の1は、サウジアラビアからのものです。	日本が輸入している石油のうち、最も量が多いのはサウジアラビアからのものです。
p.63	下囲み	4か国の子どもたちが	6か国の子どもたちが



平成23年度小学校教科書準拠・教授用ソフトシリーズ

教育出版の デジタル教科書



小学社会
5~6年

教科書に掲載している写真や絵を大きく映します。
拡大したり動かしたりすることができます。
グラフや統計資料には、適宜、
過去のデータを追加表示できるようにし、
より深い理解が期待できます。

小学国語 ● 1~6年
ひろがる言葉

小学算数 ● 1~6年

小学理科 ● 3~6年
地球となかよし

各 63,000 円 (本体+税) ※各教科・各学年ごとのお求めとなります。1~6年, 3~6年, 5~6年をまとめた価格ではありません。



〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
ホームページ <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

TEL: 03-3238-6965
FAX: 03-3238-6999



小学社会通信 まなびと [2012年 秋号] 2012年10月1日 発行

編集：教育出版株式会社編集局
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神2-8-49 ヒューリック福岡ビル 8F
TEL: 092-781-2861 FAX: 092-781-2863
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411